

佳作

私の次の目標

新潟県粟島浦村立粟島浦中学校

2年 萱原 めぐり

みなさんは何かを目標にして長い間続けてきたことはありますか。私は小学校の6年間「ランドセル寄付」を目標にしながらランドセルを使っていました。

ランドセル寄付とはアフガニスタンやベトナム、カンボジア、フィリピンなどの貧困や教育格差により通学カバンを持てない子どもたちに自分が使ったランドセルを寄付するという活動です。ジョイセフや国際子供友好協会、もつたいないジャパンなどの団体がランドセル寄付を行っています。私はこの活動があると知ったときすぐに私のランドセルをここに寄付しようと考えました。私と同じ世代を生きる世界の子どもたちのうち、どのくらいの子どもが生まれた環境によって通学カバンを背負って学校に通えていないのか、そのことを通学カバンを背負って通っている私は知りませんでした。だからこそこの活動を知って、私も貢献したいと考えたのです。

私たちが世界の貧困状況を知り、みんなに現状を知ってほしい、一人ひとりがそれを意識して行動してほしいと呼びかけても意識するだけでは世界の貧困が減ったり、なくなったりすることはありません。だから私は今の自分にできる最大限のことである寄付を目標にしたのです。小学校1年生から6年生までの6年間、私はランドセルにカバーを付けて登校し、他にも傷や汚れができないように気をつけながら生活をしました。私がここまでしてランドセルをきれいに使っている理由。それは、貧困や教育格差が理由でランドセルを買えない、背負えない子どもたちに、寄付されたランドセルだと分からぬくらいのきれいで新品に近いランドセルを使ってほしいと思ったからです。私のランドセルは私の父方の祖父、祖母、そして母方の祖父、祖母がお金を少しづつ出しあつてくれて買ってもらいました。買ってもらえたときの喜びと世界につしかないう自分のランドセルをはじめて背負ったときの感覚は今でも鮮明に覚えています。小学校に上がるタイミングで買ってもらえるランドセル。小学生の象徴であるランドセルに憧れた時期は誰にでもあったはず。自分のランドセルが届いた！ そんな気持ちに寄付先の子どもたちにもなってほしいのです。

そして私は昨年やっと、6年間大事に使ってきたランドセルを思い出のランドセルギフトに寄付しました。私のランドセルは、アフガニスタンの子どもたちに送られるそうです。寄付をし、私の6年間の目標は達成しました。誰の手に私のランドセルが届いたかは分からないけれど、6年間大切に使ってきたラ

ンドセルだからこそ、届いた子に思う存分使ってほしいと思っています。

ランドセル寄付の存在を他の人に広めることは誰にでもできるかもしれません。そして、ランドセル寄付の存在を知って6年間使ったあとに寄付することも一部の人ならできるかもしれません。カバーを付けなくても、汚れや傷を気にしないで、6年間使い終わってから団体に渡せばそれだけで寄付したことにはなるのだから。でも私は、自分で6年間大切に使うという目標をたてて実行したランドセル寄付に意味があると思います。小学校低学年のまだ幼かったあの頃に世界の現状を知り、自分にできることを自分なりに考え、そこから自分で目標を持ちやろうと思った、そして達成できたランドセル寄付だから。

私にはまだまだ知らない世界の現状があり、それに対する取り組みもたくさんあると思います。ランドセル寄付もその一つでした。でも、少しでも知り、そこから自分にできることを探してやってみること。それは私にもできること。そしてできたことです。

この世界のことを知ったその時に少しでも行動しよう、やってみようと思うことが大切だと思います。そしてそれを目標に実際に行動する。誰かを、何かを思う気持ちから生まれる一人ひとりの意味ある行動が、私たちがこれから生きる未来に、そして世界につながるのではないか。どうか。

世界の問題がなくなるまで、私はこれからも私にできることを考え、目標にして、過ごしていきます。それが私の次の目標です。